

老舗名	K&K国分 B組 6班
Q.1	<b>K&amp;Kは何の略称ですか。</b>
A.1	K&Kは創業者でもあり歴代の社長でもある(襲名制の為)、國分勘兵衛の頭文字です。間の&は、輸入品のC&B(クロス・アンド・ブラックウェル)などの商標をヒントにして入れたと伝えられています。C&B社は1706年にイギリスで創業された企業で、日本ではカレー粉で知られています。
Q.2	<b>なぜ、一丁目一番地を本社にしたのですか。</b>
A.2	実は、日本橋1-1-1という住所を狙って当社が本社を構えたわけではありません。昭和47年(1972)までは、通り1丁目という住所でした。その時に、東京都の方で区画整理があり、現在の本社ビルの場所が日本橋1-1-1と定められました。
Q.3	<b>国外で売るときに、どのような工夫をされていますか。</b>
A.3	日本の食文化(日本ならではのおいしさ)、品質管理レベルの高さなどのジャパニーズスタンダードを国外に発信できるように工夫をしています。
Q.4	<b>一番売れている商品は何ですか。</b>
A.4	缶つまプレミアムかき燻製油漬け
Q.5	<b>どのような人が商品を買いに来ますか。</b>
A.5	日本橋に散策や買物に来たお客様、近隣にお勤めの会社員、OLの方などが多いです。
Q.6	<b>最初はどのような商品を主に売っていましたか。</b>
A.6	現在は、食品の卸売業がメインであり、食品・酒類に渡る全般を販売していますが、創業当時は、呉服屋でした。それは、創業者の第4代國分勘兵衛が大黒屋という呉服屋で修業を行い、独立したからです。しかし、すぐに見切りをつけ、醤油醸造・販売業に転換しました。今の茨城県土浦市で、醤油醸造を行い、日本橋で販売をしていました。「亀甲大(キッコーダイ)」というブランドで、当時は高級な醤油で江戸城御用達の商品にもなっていました。今では、醤油と言えばキッコーマンが有名ですが、亀甲大醤油はそれよりも60年ほど前から製造・販売していました。
Q.7	<b>新しい商品を作るときは、どのような工夫をされていますか。</b>
A.7	お客様の求めている者の調査を行い、他社にはない、新しい商品作りを心がけています。
Q.8	<b>昔から続けてきて、これからどう発展していきたいですか。</b>
A.8	食品卸業は、環境対応業だと思っています。環境とは、ECOとかの環境ではなく、社会環境という意味の環境です。弊社の歴史の中では、呉服屋・醤油醸造業・食品卸売業と業態を転換してきた歴史もあります。300年という歴史を紡いできた中には、一つの事業に固執してはできませんでした。今でも、食品卸売業という根幹はあっても、小売業・物流業・メーカー部門等、様々な事業を行っております。企業というのは、コレという事業があるのはもちろん立派だと思いますが、その時々環境に合わせて、変化していくものだと思います。例えば、赤ちゃんのおむつやマスクなど衛生用品で有名な「ユニ・チャーム」さんは、元は建材メーカーでした。国分グループも時代のニーズが求める物があれば、それにチャレンジし、次の100年、200年後も発展していける企業でありたいと思っています。
Q.9	<b>300年以上続けてきて、一番大変だったことはなんですか。</b>

A.9	<p>国分の長い歴史の中には、3つの大きな転機があります。1つ目は明治維新です。この時は、世の中の制度変化などもあり、醤油醸造業をやめ、現在の食品卸売業に転換をいたしました。2つ目は関東大震災です。大きな被害を受けて、当時の本社ビルも建て直したばかりでしたが、火事で焼けてしまいました。当時は、本社ビルが商品倉庫になっていましたが全焼しました。社員全員力を合わせて、そこから立ち直りました。3つ目は太平洋戦争です。この時は、売るものが無いという状況で困りました。さらには本社ビルもGHQに接収されるという事態でした。あるものは片っ端から売るということで、漬物、牛乳、その他食品、さらには機関車まで販売していたという記録が残っています。</p>
	<p><b>Q.10 創業当時から変わらないものはありますか。</b></p>
A.10	<p>現在にも社是として残っている「信用」です。企業としては、利潤追求に合わせて、社会的信用も得なければ事業を継続していけないという考えの下、創業当時から「信用」を原点にかかげておりました。帳目として一番古く残っている者は、260年以上前の記録として残っています。その中には、例えば「藩士や町役人には失礼の無いように気を付ける事。」「わずかな商いであってもお客様を大切にしなければならない。」など、顧客第一を説いております。</p>